年間授業計画

芦花　高等学校 令和７年度（２学年用）教科 公民科　　科目　公共

教　科：　公民科　　科　目：　公共　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　21 HR～　27 HR

教科担当者：（21HR：武田）（22HR：澤井）（23HR：澤井）（24HR：澤井）（25HR：武田）（26HR：澤井）（27HR：澤井）

使用教科書：（『高等学校 公共』教育図書　）

教科　公民科　　の目標：

【知識及び技能】 政治、法律、経済、地理、歴史など社会に関する基本的な知識を身につけ、それを活用するための技術を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 情報を収集・分析し、批判的思考力を身につけるとともに、自己表現能力を高め、社会問題に対する意見を自らの言葉で述べる力を

【学びに向かう力、人間性等】 自らの学びを主体的に進める力や、他者との協働やコミュニケーション能力を養い、共生的な社会を築く人間性を身につける。

科目　公共　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治・法律・経済・社会的課題などに関する基本的な知識を身につけ、それを自己の意思決定や行動に役立てる能力を習得する。そのために、憲法や基本的人権、公共性や多様性、メディアの使い方など、民主主義社会に必要な知識を学ぶ。	自己と他者を尊重し、批判的思考力や多様な意見を尊重する力、自己表現能力や公共的な場での議論やディベートのスキル、民主主義社会で求められる、個人の自由や権利と共同体の利益をバランスよく考える力を育成する。	コミュニティの問題解決を目指し、他者と協働することを通じて、自己と他者を理解し、アイデンティティを確立するとともに、公正さや正義など、民主主義社会を支える価値と、積極的な市民参加意識、共生的な社会を築く姿勢を育

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A 単元　対話から生まれる公共 【知識・技能】 ・ハーバーマスの対話的理性，公共圏の概念を理解する。 ・対話や熟議を実践する条件について理解する。 【思考・判断・表現】 ・意見の異なる相手との対話を実践できる。 ・相手の意見を受けて自分の考えを述べることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・対話によりコミュニティや社会をより良いものしていこうとする。	公共とは対話を通して，作り上げるものであることを学ぶ。対話を行うためには，自由に意見を述べる「場」が必要であることを，ハーバーマスの思想を参照しつつ理解させる。さらに公共的空間，対話，合意形成などを，より具体的にイメージさせるために文化や芸術に関する日本の俳諧サークルに注目させる。生徒が日常的に行っている「会話」と「対話」の差異から考えさせるのもよい。どのような場面で対話的理性が必要となるか，具体的に学校生活の中で意見の相違が起こる場面などを想定させる。	【知識・技能】 ・ハーバーマスの対話的理性，公共圏の概念を理解している。 ・対話や熟議を実践する条件について理解している。 【思考・判断・表現】 ・意見の異なる相手との対話が実践できている。 ・相手の意見を受けて自分の考えを述べることができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・対話によりコミュニティや社会をより良いものしていこうとしている。	○	○	○	2
	B 単元　功利主義と義務論 【知識・技能】 ・功利主義と義務論の相違について理解する。 ・感性と理性の相違について理解する。 ・「最大多数の最大幸福」の弊害について理解する。 ・ベンサムとミルの功利主義の相違について理解する。 【思考・判断・表現】 ・社会現象や政策判断を，功利主義，義務論の考え方に基づき表現する。 ・功利主義の課題をどう克服するか質的功利主義などを手掛かりに思考する。 ・義務論に基づく社会がいかにして可能か思考する。 【主体的に学習に取り組む態度】	トロッコ問題を手掛かりに，ベンサムの唱えた功利主義とカントの義務論という倫理学における二つの考え方を学習する。「最大多数の最大幸福」という「結果」を重視する立場と，行為の「動機」を重視する立場，倫理学において二つの考え方があるが，現実の政策や行為では，二者択一ではないことにも留意する。	【知識・技能】 ・功利主義と義務論の相違について理解できている。 ・感性と理性の相違について理解している。 ・「最大多数の最大幸福」の弊害について理解できている。 ・ベンサムとミルの功利主義の相違について理解している。 【思考・判断・表現】 ・社会現象や政策判断を，功利主義，義務論の考え方に基づき表現している。 ・功利主義の課題をどう克服するか質的功利主義などを手掛かりに思考している。 ・義務論に基づく社会がいかにして可能か思考している。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習した内容を自らの倫理観，過去の行為に照らし合わせ，思考している。	○	○	○	2
	C 単元　民主政治の歴史 【知識・技能】 ・社会契約説，自然権，三権分立など民主政治の重要概念を理解する。 ・マグナカルタから世界人権宣言にいたる人権をめぐる世界史の流れを理解する。 【思考・判断・表現】 ・個人と国家の関係を契約という視点から捉え思考，表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自らが持っている人権（自然権）について自覚を深める。	近代ヨーロッパで，どのように民主政治が形成されてきたかを学ぶ。社会契約説と市民革命の関係に着目させる。近代ヨーロッパで，どのように民主政治が形成されてきたかを学ぶ。社会契約説と市民革命の関係に着目させる。	【知識・技能】 ・社会契約説，自然権，三権分立など民主政治の重要概念を理解している。 ・マグナカルタから世界人権宣言にいたる人権をめぐる世界史の流れを理解している。 【思考・判断・表現】 ・個人と国家の関係を契約という視点から捉え思考，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自らが持っている人権（自然権）について自覚を深めている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	D 単元　法と社会 ・法と道徳との相違点について理解する。 ・日本の法体系，法の分類，法の対象について理解する。	社会が法やマナー，道徳などのルールにより維持されていること，なかでも法が強制力をもち人を拘束する力を持つことなど法の特徴をつかみ，法の分類，階層関係について理	【知識・技能】 ・法と道徳との相違点について理解している。 ・日本の法体系，法の分類，法の対象について理解している。				

	・「法の支配」と「法治主義」の相違点について理解する。 【思考・判断・表現】 ・法の限界を理解し，法の実効性を高めるための手段について思考する。 ・よりよい社会の実現のために法がどのような機能を果たしているか表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 法について関心を持ち，巻末の法文にあたろうとする。	解させる。 法の限界，法治主義の問題点などについて着目し，法が万能ではない点に留意させる。	・「法の支配」と「法治主義」の相違点について理解している。 【思考・判断・表現】 ・法の限界を理解し，法の実効性を高めるための手段について思考している。 ・よりよい社会の実現のために法がどのような機能を果たしているか表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 法について関心を持ち，巻末の法文にあたろうとしている。	○	○	○	8
	E 単元　契約と消費 【知識・技能】 ・契約が当事者の同意により，成立することを理解する。 ・消費者を守るための法律や組織の役割について理解する。 【思考・判断・表現】 ・なぜ成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたのか思考する。 ・企業と消費者の関係について理解し，なぜ消費者を守る法や組織が必要なのか，説明する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・18歳成年について自らが近く持つ権利と，責任について自覚を深める。 ・よき消費者として，どう行動すべきか自覚を深める。	社会生活を営むうえで，私たちはさまざまな契約を結んでいることを理解させる。契約が法的根拠をもつこと，また契約を取り消すための仕組みについて理解させる。 また，消費者がさまざまな法律により守られていること，一方で責任ある消費行動が求められていることを自覚させる。	【知識・技能】 ・契約が当事者の同意により，成立することを理解している。 ・消費者を守るための法律や組織の役割について理解している。 【思考・判断・表現】 ・なぜ成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたのか思考している。 ・企業と消費者の関係について理解し，なぜ消費者を守る法や組織が必要なのか，説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・18歳成年について自らが近く持つ権利と，責任について自覚を深めている。 ・よき消費者として，どう行動すべきか自覚を深めている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2学期	F 単元　日本国憲法の三つの原理 【知識及び技能】 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点を理解する。 ・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，憲法の３つの基本原理について理解する。 ・憲法改正の手続きを理解する。 ・違憲審査権と憲法の関係について理解する。 【思考・判断・表現】 ・立憲主義の意義について適切に表現する。 ・憲法改正の是非について，自ら思考する。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本国憲法の条文を読み，より理解を深めようとする。	国民主権，基本的人権の尊重，平和主義の憲法の原理についての知識を習得している。憲法とは国家権力を縛り，国民の権利を守るためのものである点を強調する。 テーマ学習① 「忘れられる権利」は認められるべきか？ テーマ学習② 男女平等は法で実現できるか？	【知識・技能】 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点を理解している。 ・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，憲法の３つの基本原理について理解している。 ・憲法改正の手続きを理解している。 ・違憲審査権と憲法の関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ・立憲主義の意義について適切に表現できている。 ・憲法改正の是非について，自ら思考している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本国憲法の条文を読み，より理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	G 単元　選挙と政治参加 【知識及び技能】 ・民主主義とは，国民に主権があるという基本的な考え方に基づき，これを実現するためにさまざまな選挙制度や法律があることを理解し，その内容を読み取る。 【思考・判断・表現】 ・個々の選挙制度についての利点と難点を，民意をよりよく反映させるという観点から説明する。 【主体的に学習に取り組む態度】 選挙に関心をもち，18歳になるときを想定して，主権者としての自覚を深める。	民主政治の基礎を支える選挙の仕組みについて学習し，さまざまな制度がなぜ必要とされるのかを理解させる。また民主主義を維持していくために私たちの主権者としての自覚が重要である点を強調する。さまざまな選挙制度については知識として習得するだけでなく，制度の背景にある考え方まで理解させたい。 テーマ学習① 日本の若者の投票率はなぜ低いのか？ テーマ学習② 「国民投票」は本当にベストな方法か？	【知識・技能】 ・民主主義とは，国民に主権があるという基本的な考え方に基づき，これを実現するためにさまざまな選挙制度や法律があることを理解し，その内容を読み取っている。 【思考・判断・表現】 ・個々の選挙制度についての利点と難点を，民意をよりよく反映させるという観点から説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 選挙に関心をもち，18歳になるときを想定して，主権者としての自覚を深めている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	H 単元　財政と税 【知識・技能】 ・財政の３つの役割についての知識と景気を安定させるための財政政策の仕組みを理解する。 ・直接税，間接税の仕組みと公平性について知識を習得し，日本の税制の特徴を理解する。 ・公債発行の目的を理解し，日本の財政状況についての知識を習得する。 【思考・判断・表現】 ・財政が市場経済で発生する諸問題	財政が格差の是正，公共財の提供，景気の安定など市場経済が招く問題への対処を目的に行われていることを理解させる。歳入・歳出，予算の編成など財政についての知識を習得させる。 租税の種類と課税の特徴について知識を習得し，税制度の公平性について理解させる。公債の種類と特徴についての知識を習得し，日本の財政が抱えている膨大な公債残高について図表を手掛かりにしながら理解させる	【知識・技能】 ・財政の３つの役割についての知識と景気を安定させるための財政政策の仕組みを理解している。 ・直接税，間接税の仕組みと公平性について知識を習得し，日本の税制の特徴を理解している。 ・公債発行の目的を理解し，日本の財政状況についての知識を習得している。 【思考・判断・表現】 ・財政が市場経済で発生する諸問題に対処するため政府が行う経済活動であるという観点から，コロナ禍の経済対策としての行われた	○	○	○	10

	に対処するため政府が行う経済活動であるという観点から，コロナ禍の経済対策としての行われた給付金などについて説明する。 ・税収と公債発行額の相関関係について注目し，必要な財源を確保するためにどのような政策が望ましいか	る。 財政破綻の危機については，論争的な問題であるため断定的な表現は避ける。	給付金などについて説明できる。 ・税収と公債発行額の相関関係について注目し，必要な財源を確保するためにどのような政策が望ましいか思考している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・住んでいる地方自治体の歳入・歳出の内訳，予算配分などについて関心をもち，調べ				
3学期	Ⅰ単元　現代社会の諸課題 【知識・技能】 ・それぞれのテーマについて基本的な概念や指標、引き起こす社会問題や影響、解決策や政策、技術や動向などに関する知識を持つ。 ・知識を活用して、問題解決や政策提言などの実践的なアプローチをする。 【思考・判断・表現】 ・各テーマについて自分なりの考えや見解を持ち、それを論理的に展開し、問題解決や政策提言をする。 ・多角的な視点を持ち、異なる分野の知識を組み合わせて、総合的に判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の興味や関心に応じて情報収集や研究しようとする。	政治や経済に関する諸課題を、テーマ学習を中心を通じて学ぶ。 テーマ学習① 格差是正のために課税すべきか？ テーマ学習② 少子高齢化問題とどう向き合うか？ テーマ学習③ 日本の経済はなぜ停滞しているか？ テーマ学習④ AIの進化は仕事をどう変えるか？	【知識・技能】 ・それぞれのテーマについて基本的な概念や指標、引き起こす社会問題や影響、解決策や政策、技術や動向などに関する知識を持っている。 ・知識を活用して、問題解決や政策提言などの実践的なアプローチをしている。 【思考・判断・表現】 ・各テーマについて自分なりの考えや見解を持ち、それを論理的に展開し、問題解決や政策提言をしている。 ・多角的な視点を持ち、異なる分野の知識を組み合わせて、総合的に判断している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の興味や関心に応じて情報収集や研究しようとしている。		○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計 70